

平成30年度境港市総合戦略推進会議録

日 時：平成30年8月31日（金） 15：00～16：10

場 所：境港商工会議所 大ホール

出席者：別添のとおり

傍聴者：1名

日 程：

1. 開 会

2. 市長挨拶

3. 委員紹介

4. 会長の指名

5. 会長あいさつ、副会長の指名

6. 協議事項

(1) 平成29年度における地方創生の取組実績について

- ・【資料①】境港市の人口動向（平成29年）
- ・【資料②】境港市総合戦略「平成29年度の取組実績」
- ・【資料③】施策の取組状況及びKPIの進捗状況
- ・【資料④】具体的施策の取組状況
- ・【資料⑤】国交付金を活用した平成29年度実施事業の効果検証

(2) 境港市総合戦略の改訂について

- ・【資料⑥】境港市総合戦略の改訂（案）

7. その他

8. 閉 会

1. 開 会

(事務局)

皆様、本日は、ご多忙の中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。只今より、「平成30年度境港市総合戦略推進会議」を開催いたします。

私は、事務局をしております「地域振興課長の沼倉」と申します。よろしくお願いいたします。

本推進会議は平成27年度に発足しまして、同年に「境港市総合戦略」を策定しました。この「境港市総合戦略」を毎年度、効果検証を行って、委員の皆さまから改善に向けた提言をいただき、必要に応じ「総合戦略」の見直しを行うというのが本推進会議の内容となっております。そのため、今回の推進会議では、平成29年度の取組実績及び国交付金を活用した事業についての効果検証、境港市総合戦略の改訂について、それぞれご協議いただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

委員の皆様には、事前に資料を送付させていただいておりますが、改めて、配布資料の確認をさせていただきます。

「式次第及び委員名簿」、資料1「境港市の人口動向（平成29年）」、資料2「境港市総合戦略 平成29年度の取組実績」、資料3「施策の取組状況及びKPIの進捗状況」、A3版の資料4「具体的施策の取組状況」、同じくA3版の資料5「国交付金を活用した平成29年度実施事業の効果検証」、資料6「境港市総合戦略の改訂（案）」、最後に、資料番号は付けておりませんが、「境港市総合戦略【平成29年9月改訂】」となります。

また、本日、「出席者名簿」、「配席表」、「境港市総合戦略推進会議設置要綱」を机の上に配布させていただいております。

全てお揃いでしょうか。不足の資料があれば、お知らせください。

それでは次第に従いまして、はじめに、市長より一言ごあいさつ申し上げます。

2. 市長挨拶

（市長）

皆さまこんにちは。「平成30年度 境港市総合戦略推進会議」の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

皆さまには、日頃より市政各般にわたりご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。またこの度は、ご多忙にもかかわらず、委員への就任を快くお引き受けいただきましたことに、心よりお礼申し上げます。

さて、大都市圏などへの人口流出や少子化により加速する、地方の人口減少を食い止めるとともに、地域活力の創造に取り組む「地方創生」が打ち出され、早四年が経過しました。

本市におきましても、平成27年10月に「3つの港と水産・観光資源を生かしたまちづくり」「『子育てするなら境港』を標榜した子育て環境づくり」この二つを基本目標に「境港市総合戦略」を策定しました。以来、今日まで基本目標の達成に向け、具体的施策を鋭意展開しているところでございます。計画から4年目を迎えますが、一部の施策を除いて、概ね着実な進行を見せているところでございます。

本日は、昨年度の取り組みの効果検証、総合戦略の改訂などについて、協議いただくこととしております。委員の皆さまには、日頃の活動やご経験などからの、行政とは違った視点から、忌憚のないご意見・ご提言を賜りますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

それでは、本日はどうぞよろしく申し上げます。

3. 委員紹介

（事務局）

ありがとうございました。

続きまして、次第3「委員の紹介」でございます。

本日の会議に際しまして、新たな任期となり、全委員の方の委嘱をさせていただいております。本来であれば、委員の皆様にご直接お渡しすべきところですが、会議時間短縮のため、あらかじめ、席上に配布させていただいております。ご了承いただきますようお願いいたします。

なお、本日は、環日本海経済活動促進協議会の浦川委員、一般社団法人境港水産振興協会の森脇委員、鳥取西部農業協同組合の前委員、境港金融会の永田委員、境港市小学校PTA連合会の寺本委員、境港市中学校PTA連合会の遠藤委員、境港市女性団体連絡協議会の足立委員の7名の委員が欠席となっております。

それでは、委員の皆様を紹介させていただきたいと思っております。名簿の順にご紹介いたします。

※委員が自己紹介

このほか、まだお越しになっておりませんが、一般社団法人境港青年会議所の池淵委員、境港市保育所保護者会連合会の老松委員も委員となっていただいております。

なお、本推進会議のオブザーバーとして、県の地方創生コンシェルジュであります、鳥取県西部総合事務所地域振興局西部観光商工課の八幡課長にもお越しになっております。

4. 会長の指名

(事務局)

続きまして、次第4「会長の指名」でございます。推進会議設置要綱第5条の規定により、市長が会長をご指名いたします。それでは、中村市長よろしくようお願いいたします。

(市長)

本推進会議の会長は「柘田知身様」をお願いしたいと思います。よろしくようお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。それでは、推進会議設置要綱第6条の規定により、柘田会長様に、これ以降の推進会議の進行をお願いしたいと思います。柘田会長様、よろしくようお願いいたします。

5. 会長あいさつ、副会長の指名

(会長)

ただいま会長に指名いただきました境港市観光協会の柘田でございます。総合戦略推進会議もいよいよ折り返し地点に来たということで、今日の会議は途中経過の実績の検証という意味合いが強いです。どうか、皆さまから忌憚のないご意見を出していただいで、より良い総合戦略を作り上げていきたいと思っております。

水木ロードの大リニューアルもおかげさまで終了いたしました。地方創生が打ち出される前から自主的に取り組んできたまちづくりの代表的な事例とされています。これも市長のご英断で多

額の予算をつけていただいて、弾みをつけることができたことを改めてお礼申し上げたいと思います。市はもとより、県や国から多額の予算をつけていただいていることを肝に銘じて、格別のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、会長就任のご挨拶に変えさせていただきます。

では、さっそく議事を進めさせていただきます。まず、次第5「副会長の指名」を行います。

推進会議設置要綱第5条の規定では、「副会長は、会長の指名によりこれを定める」とありますので、私の方で指名させていただきます。

副会長には、奥森 清委員を指名させていただきたいと思います。奥森様よろしく願いいたします。

(副会長)

皆さま、よろしく申し上げます。

(会長)

ありがとうございました。ここで市長は、所用により退席いたします。

(市長)

よろしく願いいたします。

(会長)

では、議事を進めさせていただきます。次第6「協議事項」に入ります。まずは、「(1)平成29年度における地方創生の取組実績について」事務局の説明をお願いします。

6. 協議事項

(1) 平成29年度における地方創生の取組実績について

(事務局)

資料1の1ページ目をご覧ください。

平成27年の国勢調査をもとに、人口動態（出生、死亡、転入、転出）により推計される平成29年10月1日時点の推計人口は、33,341人となり、前年より378人減少しています。年齢3区分別に見ると、15～64歳の生産年齢人口及び0～14歳の年少人口は右肩下がりが続いている一方、65歳以上の高齢者人口は右肩上がり続き、少子高齢化が進行している状況であります。

また、下段にあります自然動態につきましては、出生数は昨年と同じ245人に対しまして、死亡者数がやや増加し469人となり、224人の減となっております。

2ページ目に参考として、女性人口の推移を掲載しておりますが、合計特殊出生率の母数となる人口（15～49歳）、そして若年女性人口（20～39歳）も年々減少しております。

続きまして、2ページ下段にあります社会動態につきましては、H25以降は社会減が続い

ておりますが、H29は前年に比べ転入者が増え、転出者が減ったことで減少幅はやや改善しております。

参考として、3ページ中段に地域別・年齢別の転入超過数を掲載しておりますが、10代と20代の転出超過数が多いのは、進学や就職等により市外へ転出する人が多いと考えられます。特に20代の首都圏への転出が多くなっています。また、4ページには鳥取県内地区別の転入超過数を掲載しております。また、年齢に限らず県内への転出では、米子市▲18人で最も多い結果が出ております。

続いて4ページ下段にあります将来人口につきましては、国立社会保障・人口問題研究所の公表した2040年の地域別将来推計人口によると、前回2013年推計(A)と2018年推計(B)を比べると全世代で人口減少が鈍化しており、本市の人口ビジョンの目標推計に近づいてきております。人口動向については、以上です。

続いて資料2～4に基づき、総合戦略「平成29年度の実績」について説明させていただきます。

まず資料2をご覧ください。平成27年度に策定しました境港市総合戦略の中の、3つの基本目標に対して、計画最終年度である平成31年度(2019年度)の目標数値に対する平成27年度から29年度の実績数値を記載しております。

順調に進んでいる項目、また進捗が不十分な項目もありますので、引き続き目標値達成に向けて取り組んでまいりたいと思います。

また、中段の施策に係る目標値(KPI)の進捗状況につきましては、総合戦略の各施策に対して36項目のKPIを設定し、KPIごとの進捗状況をA～Dの4段階で評価しております。

ただし、今回(平成29年度)に関しましては、漁業所得が現在のところ未公表となっておりますので35項目を評価しております。

基本的には基準値から5年後の目標値までの伸展を5で割って1年分の伸展に換算し、平成29年度の伸展が目標値の3年分の伸展に対してどの程度達成したかで評価しております。

なお、この評価については、あくまで数値目標の評価であり、3年間で成果が出づらい施策もありますので、評価が低いものが必ずしも取組が不十分であるというものでもありません。

KPIの進捗評価につきましては、A:すでに達成しているKPIが4項目、B:順調に進捗しているKPIが16項目(全体の約46%)、C:進捗がやや不十分及びD:進捗が不十分なKPIは合せて15項目(全体の約43%)でした。

35項目のKPIについて、それぞれ内容を「資料3」にまとめておりますので、ご覧ください。資料3では、すでにKPIを達成している4項目及び進捗が不十分な1項目について、説明させていただきます。

KPIを達成している4項目のうち、まずは、P1下段の表の3つ目、「伯州綿学習・体験事業開催数」につきましては、幼稚園、小学校、高校など幅広い年代で取り組みを進めており、3年間で38回開催し、目標値の30回を上回りましたので、後ほど総合戦略の改定において、目標値の上方修正を提案させていただきたいと思っております。

続きまして、P3上段の表2つ目、「国際線利用者数(ソウル便、香港便、チャーター便)」

につきましては、約7万7千人と目標値の6万5千人を超えております。これは、平成28年10月のソウル便LCC化以降、順調に伸びたものに加え、平成29年12月からの5便化の効果もあり、平成30年度に入ってから好調に推移しているところであります。これも後ほど上方修正の提案をさせていただきます。

続きまして、その下の段の「DBSクルーズフェリー乗客数」につきましては、約3万3千人と目標値の3万人を超えております。これは、韓国からの登山客やサイクリング愛好者などの増加が要因として考えられ、皆生温泉や大山などを巡るサイクリングツアーなども実施されております。これも後ほど修正の提案をさせていただきます。

最後4つ目で、P7の表の2つ目、「圏域での外国人宿泊数」につきましては、11万7千人と目標値の11万2千人を超えておりますが、この数値は圏域5市共通のものでありますので目標値の変更は行わないこととしておりますが、引き続き11万2千人以上を目指していきたいと考えております。

続きまして、KPIの進捗状況が不十分である1項目について説明いたします。P1上段の表の1つ目、「新商品開発支援件数」につきましては、水産加工大賞でのチャレンジ支援数が見込まれたものでありますが、近年の開催が隔年での開催となり、実績がない年もあるため3年間で5件にとどまっております。引き続き、6次産業化の取り組みの中でも支援の検討を行っていききたいと考えております。

続きまして、資料4について説明させていただきます。

資料4につきましては、7ページほどございますが、総合戦略に掲げております「具体的施策」のそれぞれの平成29年度の実績及び平成30年度以降の取組（予定）について記載しております。説明については省略させていただきますが、目標達成に向け、引き続き取組を進めていくこととしております。

続きまして、資料5について説明させていただきます。

資料5につきましては、国の交付金を活用して平成29年度に実施した3事業の「事業概要」、「交付金額」、「KPIの実績」、「事業の効果」、「今後の方針」について記載しております。

3事業ともに補助率1/2の地方創生推進交付金を活用した事業であります。

1番目の「中海・宍道湖・大山圏域ブランド化プロジェクト～山陰まんなか共和国の挑戦～」と2番目「中海・宍道湖・大山圏域のローカルTOグローバルイノベーション」につきましては、中海・宍道湖・大山圏域市長会での連携事業。また3番目の「名峰大山とともに生きる・鳥取県西部圏域の広域観光推進プロジェクト」は鳥取県西部での広域で連携した事業となっており、引き続き、平成32年度まで実施してまいります。

なお、中海・宍道湖・大山圏域市長会及び鳥取県西部での広域連携事業については、それぞれの組織で、当会議のような有識者会議で効果検証を行っており、圏域市長会の方に本市からも奥森委員、徳田委員に参加していただいております。

説明については、以上です。

(会長)

それでは、只今の事務局より説明のあった境港市総合戦略の平成29年度の実績について、ご意見やご質問、今後もっとこういった施策に取り組んでいったらいいのではないかという提言などがあれば、ご発言いただければと思います。

また、せっかくの機会ですので、各委員の皆様が所属の団体で地方創生に関して、地域を盛り上げていくために、このような取組をしているといった事例があればご発言いただければと思います。

(委員)

教育機関にいる立場から発言させていただきます。昨年から参加させていただいておりまして、今回が2回目になります。境港市総合戦略の基本的な考え方に「しごと・ひと・まち」というのがあります。これにもう一つ観点として、「教育」というところは境港市としてはどうなのでしょう。「子育て」というのは「ひと」の中に入っていますが、これは5才とか6才までのところなのかなと思ひまして。いかがでしょうか。

(会長)

教育長いかがですか。

(事務局)

教育についてのご発言ありがとうございます。人口減少で境港の子どもたちも随分減っています。そんな環境の中で、いかに子どもたちの力を伸ばしていくのかというところで、大きな目標としましては、これからの学校づくりの在り方において、地域と一体となった子育て環境、つまり、家庭・学校・地域が総がかりで子育てをするというところを目標に掲げながら、現在は、教育を推進しているところです。

それでご質問についてですが、「子育て」の中に「教育」も入っているものと考えています。

(会長)

教育という素材が非常に難しいです。言葉ばかりがあつて、現実どうしているのか、というのはあつて、取扱いにくい面もあります。総合戦略の中に具体的な施策はありましたかね。

(事務局)

ありません。

(委員)

発言の主旨としては、「境港市の教育は素晴らしいから境港市に住もう」となるような先端的な施策があつたら、人も集まるし、そういう町になれば、素晴らしいのではないかと考えました。

(会長)

また、事務局の方で、そういった素材があれば、取り上げるということでもよろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(会長)

ほかにございませんか。それでは、この議題についてはこれまでとし、次の議題に移りたいと思います。

(2) 境港市総合戦略の改訂について

(会長)

続いてもう一つの議題である「境港市総合戦略の改訂について」の協議に移りたいと思います。事務局は説明をお願いします。

(事務局)

境港市総合戦略の改訂について、資料6と総合戦略(冊子)とあわせて説明させていただきます。平成29年度の実績を踏まえて、「境港市総合戦略」の一部を次のとおり改訂したいと考えております。KPIについて、すでに目標を達成した4項目のうち、3項目について目標数値の上方修正を行うものです。

1つ目は、総合戦略P8「伯州綿」学習・体験事業開催数につきまして、目標値の30回を達成しておりますので、平成29年度の実績を基に、2019年度(平成31年度)の目標値を70回へ上方修正したいと考えております。

2つ目は、総合戦略P11、12国際線利用者数(ソウル便・香港便・チャーター便)につきましても、好調であるソウル便の本年10月末からの6便化による増加を見込み、2019年度(平成31年度)の目標値を9.5万人へ上方修正したいと考えております。

3つ目は、総合戦略(同じくP11,12)DBSクルーズフェリー乗客数(境港～東海間)につきましては、目標値の3万人を達成いたしましたが、就航回数や座席数(定員)の関係もあり、今後大きく実績が跳ね上がることは考えにくく、2019年度(平成31年度)の目標値を年間3万人以上の維持へ修正させていただきたいと考えております。

説明については以上です。

(会長)

それでは、只今の事務局の説明事項について、ご意見やご質問、何でも結構でございますので、ご発言をお願いいたします。

(副会長)

DBSクルーズフェリーの「3万人以上の維持」という目標はいかがですか。

(委員)

単純に計算すると、週に1便で、年間で52便。乗客は400人くらい乗れますので、往復で最大4万人程度。それで、現在360人、370人あたりが平均でして、これが最大かと思えますので、平成29年度は3.37万人ということで、良いところではないかと思えます。

(副会長)

エアソウル便の件ですが、10月末から週6便になるとのことですが、LCCの欠点は乗客数が減ってくると、その路線をカットしてきます。基本的には80%の乗客数は維持できないと、採算が合わないところも言っております。ですので、この数字は順調に行くということを前提に、インバウンドだけでなく、アウトバウンドも増やしていかなくてはいけない。つまり、こちらに乗って行って初めてクリアできる数字です。ですので、一挙に3万人を増やすというのは、相当難しいのではないかと個人的に思います。その点、いかがでしょうか。

(事務局)

資料3のP3にありますけれども、平成29年度の実績は7.76万人で、目標を1万人以上クリアしているという点、それから、搭乗率のご心配もございしますが、10月28日から週6便になることを踏まえますと、計画策定する場として見れば、これくらいの数値は目標にしないと意気込みが見えないだろうという風に考えております。

(副会長)

まあ、目標ですからね。ただ、そういうリスクはあるということをご理解いただきたいと思えます。

(委員)

私は普段松江で仕事をしております。以前は、米子・鳥取でも仕事をしておりまして、通算で言いますと、鳥取県で仕事をしている期間の方が長く、よく家族で境港にも遊びに来ておりまして、会長たちが作り上げた水木しげるロードについてもよく取材をさせていただいた人間でございます。

松江に住んでいる人にとっては、距離にすると、出雲空港よりも、米子空港の方が近いです。ただ、高速道路が出雲空港には付いていて、移動時間は若干短くなります。それで、それぞれの県がそれぞれの搭乗率を上げるために、地元の空港を応援しているという構図があります。LCCの国際定期便があるのは米子空港なのですが、島根県の人はその存在自体を知らないと思えます。先ほど、副会長も話されていたように、LCCは搭乗率が減るとすぐ切ってきますので、境港市民だけが使うのではなく、圏域を上げてアピールしていく必要があると思えます。

(会長)

ありがとうございます。ほかにございますか。

(委員)

概ね順調に推移しているかと思います。境港市は港湾整備ですとか色んな形で発展しており、圏域の中でも活力のある地域ですので、それが実績の数値に表れていると思います。さらに、地の利を生かした戦略を強化して行ってほしいと思います。

人口動態について、これは米子市も同様でしたけど、60歳以上の方の転入が多くなっております。概ねそういう傾向があって、退職後のUターンなどがあるかと思いますが、老後の出戻りを戻す取組みも強化してもらって、もちろん、若年層もいわずもがなではありますが、高齢の方が戻ってくる傾向はあるようですので、それを強化する取組みもあって良いかと思います。

それから、境港市は人手不足で、特に、米子・境港周辺では有効求人倍率が高いという現状があります。既に外国人の労働者・実習生等も多く来ているかと思いますが、こういった人手不足解消のための取組みも特区ですとか色んな制度を活用していかないと、需要があっても供給が追いつかないという状況にもなりますので、取組みを強化して行ってほしいと思います。

もう1点。圏域で医工連携の事業が進んでいます。これは引き続き推進していかないといけないのですが、弓浜半島で耕作放棄地も増えてきておりますので、農業にAIを使うといった農業と工業という連携や、漁業と工業の連携といった新しい技術革新を第一次産業の方面で生かしていくことができると考えています。

(会長)

ありがとうございます。ほかにございますか。

(委員)

クルーズ客船が数多く入港してまいります。その中で、乗船客に対してちょっとしたプレゼントを渡しております。それで、昨日、入港した飛鳥Ⅱに対しては、クルーについてもプレゼントも行いました。昨年、初めて実施し、今年もまた実施した形です。意図としましては、クルーの皆さまが情報交換する中で、「境港に着艦して街を歩くとこんなことがあったよ」と話題にもらえるということです。そんな形で、地道ではありますが、水木しげるロードにゆっくり楽しんでもらえるように実施しているところです。また、良い知恵がありましたら、教えて頂けたらと思います。

(会長)

ありがとうございます。ほかにございますか。

(委員)

先ほど、有効求人倍率の話がありましたので、発言させていただきます。ちょうど今日が7月

の有効求人倍率の公表日でございました。以前から、西部地区の有効求人倍率が鳥取県、全国に比べて非常に高いという状況で推移していたのですが、今年度もやはり同じ状況です。それで、今日発表された西部地区の数字が1.98倍です。これは職を探している一人の人に対して、職場はほぼ2人の人を探しているということになります。よくミスマッチという言葉が言われますが、1.98倍という数字はもうミスマッチを乗り越えていて、例えば、仕事を選ばずにみなさんが100%就職されたとしても、ほぼもう半分、就職された方の前の職場が人を探しているという状態で、本当にたくさんの職場が人手不足で困っております。厚生労働省でも「いまだかつてない状況」と言っており、対策に苦慮している状況です。境港市の場合、先ほど、高齢の方のUターンという話がありましたが、最近、ハローワークの窓口でも65歳以上で仕事を探す方が増えております。本当に、年齢の高い方が元気に働いておられるというのが境港だろうと思っております。ですので、高齢者が働きやすい場を作るための方策というの、総合戦略の中に入ってくると、これから先の労働力の確保という点からも良いのではないかと思います。聞かせていただきました。

(会長)

ありがとうございました。何か良い方策がありましたら、皆さんのほうから事務局に伝えていただければと思います。そのほかありますでしょうか。ないようですので、境港市総合戦略の改訂について、事務局の提案内容で承認したいと思っておりますがいかがでしょうか。

ご承認いただきます方については、拍手をお願いいたします。

拍手多数でありますので、境港市総合戦略の改訂について、事務局案で承認したいと思います。

それでは、協議事項についてはこれまでとし、次第7のその他に移りたいと思っております。事務局は説明をお願いします。

7. その他

(事務局)

本日承認いただいた内容にて「境港市総合戦略」の改訂を行い、改訂したものについては後日、委員の皆様へ送付させていただきます。事務局からは以上です。

8. 閉会

(会長)

それでは、これにて全ての日程を終了しました。スムーズな議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。

(事務局)

梶田会長をはじめ委員の皆様には、長時間にわたりご協議いただき、誠にありがとうございました。これをもって、「平成30年度境港市総合戦略推進会議」を閉会いたします。